



## 第 16 回年会特集 第 2 弾 ～年会に参加して～

年会に参加された若手・中堅の研究者から年会の感想を寄せていただきました

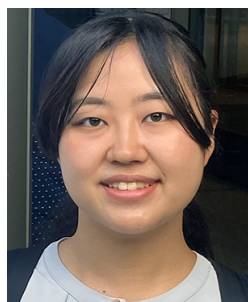
▶ エピジェネティクス研究会に参加するのは 3 回目なのですが、今まではオンライン参加のみで、今回初めて対面で参加しました。対面での学会の参加自体が初めてであったため、どんな雰囲気なのだろう、どんなお話が聞けるのだろうととてもワクワクしながら会場に向かいました。

テーマの「The convergence」の通り、莫大なエピゲノムの情報と最新の技術を用いて様々な視点から、生命の本質に迫ろうとするお話をたくさん聞くことができました。特に酒井先生のベージュ脂肪細胞の話が印象的で、慢性的な寒冷刺激により JMJD1A のリン酸化を介して脂肪細胞の形態が大きく変わること、調節因子の発見により生活習慣病の治療が期待されていることを知り、エピジェネティクスの重要性と可能性を改めて感じました。

ポスター発表では、どこのブースも白熱した議論が行われていました。私も、たくさん質問し、研究の手法やエピジェネティクスの分子機構など、知らないことをたくさん学ぶことができました。また、自分と同年代の方々が意欲的に研究をしていることを目の当たりにし、とても刺激になりました。私は、まだ学会発表をしたことがないのですが、次回は是非発表をして、自分の研究を知ってもらい、研究室外の人たちと議論してみたいと思いました。

また、会員交流会にも参加しました。自分の研究分野とは異なる分野の先生と情報交換を行い実験のちょっとしたコツなども伺うことができとても有意義でした。余談ですが、懇親会の食事も美味くいただきました(特にフランスパンにローストビーフをのせたもの)。

2 日間を通して、本当に多くの知識を仕入れることができました。ただ、理解が追いつかないところもあったので、勉強不足も痛感しました。もっと精進してエピジェネティクスに関する理解を深めていきたいです。このような機会を作って下さった、関係者の皆様にお礼申し上げます。



下向 結貴  
名古屋大学大学院  
生命農学研究科  
博士前期課程 2 年

▶ 今回、初めて日本エピジェネティクス研究会に参加し、ポスター発表をさせていただきました。初参加ということで発表に対する不安や緊張を強く感じていましたが、それ以上に先生方の熱意ある講演を通じてエピジェネティクス研究について知ることができ、非常に刺激的な 2 日間になりました。

各セッションでは、普段は触れることが少ない分野の研究成果について、一度に聴くことができるという貴重な経験をさせていただきました。自分の知識不足により理解が追い付かなかった場面も多々ありましたが、その中でも先生方の異なる視点・手法で進められた研究は、どれもが新鮮で興味深いものでした。加えて膨大な実験データをまとめ上げ、わかりやすく伝えるという発表技術も、ポスター作製に苦心していた私にとって大きな学びとなりました。

特に印象深かったのが、谷内江先生と酒井先生の講演です。谷内江先生の講演では、細胞の発生過程を細胞内で記録し、取り出すというアイデアが衝撃的で、研究戦略から結果に至るまでワクワクしながら拝聴させていただきました。また、酒井先生の講演は、私の興味があったエピゲノムと環境適応に関して、非常に理解しやすくまとめられており、時間を忘れて聴き入ってしまいました。

ポスターセッションでは会場全体で議論が活発に行われており、私もその熱気に刺激を受け、積極的に参加することができました。私のポスターにも多くの先生方が聞きに来てくださり、普段とは異なる視点からのご質問やご意見を多く頂き、自身の研究について客観視する有意義な時間となりました。

最後に、本研究会を通して多くの学びを得ることで、自身の研究に対する視野を広げることができました。このような機会を頂けたことに感謝いたします。今後は、皆様とより一層深い議論ができるよう研究活動に励みたいと思います。



横澤 拓馬  
福井大学大学院工学研究科  
博士前期課程 1 年



▶ 日本エピジェネティクス研究会の年会での発表は、大会初期に参加して以来になり、大変楽しみにしていました。普段参加しているがん学会とは異なり、「エピジェネ」に集中している本学会はそれぞれの方の深く詳細な発表や、専門としている方の鋭い質問などがあり大変有意義なものでした。また、いつもでしたら拝聴する機会がない分野の先生方の研究を知ることができ、大変楽しく参加することが出来ました。

私自身は、胃がんでありながら肝臓がん様の発現を呈し、ヘテロジェナイティがあるAFP産生胃がんについて、一細胞レベルで明らかにする研究を行っています。若干エピジェネのメインから外れるのですが、それでもポスター発表で多くの方に来ていただき、質問や提案などの活発な議論をすることが出来ました。また、私の発表を聞いて頂いた参加企業の方からも、最近提供しているキットにより、現在行っている実験での取得データ量を増加することができるという情報も頂き、ポスター発表時間が1時間半と長めで、かつ現地開催での良さが出たのではと思います。久しぶりにエピジェネティクス研究会年会に参加した事で、コアな学会の良さを改めて実感いたしました。

各セッションでは最新の研究を聞くことが出来、自分自身も気を引き締め日々研究に取り組む意欲が湧きました。特に、谷内江先生や鈴木先生の発表には圧倒され、内容の濃さもさることながら、明らかにしたい目的のために新たな測定法の確立や、得られた結果を多角的に解析するデータ解析などの重要性を実感し、さまざまな分野の研究者とタックを組む必要性を感じました。幸運にも今回の年会はネットワーキングが開催され、ポスター会場等でフラックに多くの研究者と交流できる良い機会になりました。

今回は年会担当の研究室の一員として、裏方としても関わり学会開催の大変さも実感いたしました。これまでや、次年度以降も本研研究年会を実行して頂く先生方に感謝致します。



野中 綾

東京大学  
先端科学技術研究センター  
特任研究員

▶ 本年会には4年連続で参加させて頂きました。エピジェネティクス研究会の年会ではその年のテーマに合わせて取り扱われるテーマが異なるので、毎回新鮮な気持ちで楽しませて頂いております。今年も幅広い分野の研究者が参加しており、普段触れる機会の少ない研究テーマのお話を聞くことができたので、充実した時間を過ごすことができました。プログラムを作成された先生方やスタッフの皆様には心より御礼申し上げます。

今回私は、「遺伝子発現変動とエピゲノム変化を自動的に解析するアプリケーションの開発」というタイトルでポスター発表をさせて頂きました。非常に有難いことに興味を持ってくださった研究者が多数おり、たくさんのご意見やご質問を頂戴することができました。また、ネットワーキング（会員交流会）では、今回発表したアプリケーションを開発するきっかけとなったChIP-Atlasの開発者である沖真弥先生とお話しさせて頂く機会を得ることができ、貴重な時間を過ごすことができました。

印象に残ったトークは谷内江望先生の発表で、「細胞の中にビデオカメラを仕掛ける」や「タイムマシン」というキャッチーな切り口や、現在の生物学の課題を解決するためにテクノロジーを開発していくストーリー展開は、非常に魅力的でエキサイティングでした。また、著名な外国人スピーカーの発表を拝聴できた点が良かったです。特に、世界中で使用されている実験手法ATAC-seqの開発者であるWilliam Greenleaf先生の話は興味があったので、日本で開催される学会で拝聴することができて嬉しかったです。

最後に、分野の最先端で研究される先生方のお話を拝聴することで、自分自身もエピジェネティクス研究に貢献できるように更なる研鑽を積みたいと感じました。来年の年会ではより良い発表ができるように研究を推進したいと思います。



衛藤 貫

熊本大学発生病学研究所  
細胞医学分野  
研究員



▶ 今回初めてエピジェネティクス研究会年会に参加し、ポスター発表をさせていただきました。私はエピジェネティクスに興味があり維持メカニズムに関する研究をしているので、本年会のようなエピジェネティクスをメインとした学会は興味のあるテーマに溢れており、とても楽しみながら参加させていただきました。特にポスターセッションでは、専門が近い研究者の方々が多くいらっしゃるからこそ、活発な議論をすることができました。また、大変参考になるご質問やアドバイスを多く頂戴できました。これは広い分野を横断するような大規模な学会では味わえない楽しさであると感じました。また、研究に関する内容以外でも研究者の方々と同世代の方々と交流することができ、大変有意義な経験となりました。

学会への参加は3回目なのですが、本年会では初めて自分の研究室を持つとはどういうことなのかという新たな視点を得ることができました。私は将来大学で研究を続けたいと考えているのですが、研究、論文化、学会や目の前の進路などについて考えていただけでした。しかし本年会の分野が近いからこそその先生方のコラボレーションや多くの公演を拝聴し、大学で研究を続けると

いうことについてヒントを得たような感覚になりました。特に谷内江先生の特別講義では、細胞内のビデオカメラやタイムマシンなど内容がとても面白かったのはもちろん、それに加え学生と1つのチームとなって研究を進めていくことなど人との関わりが研究ではとても重要だということ、基本的であるとは思いますが改めて深く理解することができました。私にはまだ早い思考かもしれませんが、目標を現実にするために、今後も研究に精進していこうと思います。

最後に、このような気づきや今後の研究の活力を得ることができたのは本年会の組織委員の皆様のご尽力によるものです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。



敷町 怜愛

横浜市立大学  
生命医科学研究科  
博士前期課程2年

#### 情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願いいたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)  
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)  
斉藤典子 (noriko.saito@jfer.or.jp)  
沖昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)  
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

#### 日本エピジェネティクス研究会事務局

群馬大学 生体調節研究所  
生体情報ゲノムリソースセンター  
ゲノム科学リソース分野内  
庶務担当幹事：畑田出穂，担当：岩田浩美  
住所：〒371-8512 群馬県前橋市昭和町3-39-15  
TEL: 027-220-8111  
E-mail: jse-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp